

分野	専門分野	科目名	看護概論		
時間	35時間	開講時期	1年次（前期）		
講師名	専任教員				
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職能団体による看護の定義を理解する。</li> <li>2. 法律に示された看護の機能と業務内容を理解する。</li> <li>3. 看護の対象を生活者としての存在として理解する。</li> <li>4. 人間の基本的欲求と環境への適応について理解する。</li> <li>5. 病気に関連した患者の行動や対処行動の特徴を理解する。</li> <li>6. 日本国憲法およびWHO憲章にみる健康の定義を理解する。</li> <li>7. 各健康レベルにおけるニーズと看護について理解する。</li> <li>8. 看護活動の概要を理解する。</li> <li>9. 地域での看護活動の必要性と方法を理解する。</li> <li>10. 病院や看護部などの組織体系、看護体制・看護方式、各レベルにおける看護管理について理解する。</li> <li>11. 医療安全に関する基礎知識について理解する。</li> <li>12. 事故発生のメカニズムとその対策について学習する。</li> <li>13. 看護という職業の本質について理解する。</li> <li>14. 看護職の役割と看護業務について学習する。</li> <li>15. 保健医療福祉のしくみについて学ぶ。</li> <li>16. 社会のなかで看護がどのように起こり、職業として発展してきたかを理解する。</li> </ol>				
講義形態	①講義・演習				
講義内容					
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは</li> <li>2. 看護のとらえ方の変遷</li> <li>3. 看護理論家がとらえた看護の本質</li> <li>4. 職能団体が定義する看護</li> <li>5. 看護師・准看護師の役割</li> <li>6. 生活者としての存在</li> <li>7. 成長・発達する存在</li> <li>8. 統合体としての存在</li> <li>9. 患者と看護師の関係</li> <li>10. 病気に関連した患者の行動</li> <li>11. ライフサイクルからみる患者の心理</li> <li>12. 治療を受ける患者の心理</li> <li>13. 療養の場からみた患者の心</li> <li>14. 健康という考え方</li> <li>15. 健康の定義</li> <li>16. 健康のレベルとニーズ</li> <li>17. 病院における看護活動</li> <li>18. 地域・在宅における看護活動</li> <li>19. 国際看護活動</li> <li>20. 看護提供システム</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>21. 看護体制と看護方式</li> <li>22. 医療安全を学ぶ意味</li> <li>23. 医療安全の動向</li> <li>24. 医療安全に関する基礎知識</li> <li>25. 事故発生のメカニズムとその対策</li> <li>26. 医療安全における感染対策</li> <li>27. 職業と看護職</li> <li>28. 看護職の役割と看護業務</li> <li>29. 専門職としての看護師</li> <li>30. 保健医療福祉のしくみ</li> <li>31. 保健医療福祉施設の種類と役割</li> <li>32. 地域における多職種連携</li> <li>33. 保健医療福祉対策</li> <li>34. 看護史を学ぶ意味</li> <li>35. 古代文明の発祥と医療・看護の形成</li> <li>36. 中世から近代にかけての看護のあゆみ</li> <li>37. 日本における看護の変遷</li> <li>38. 現在の看護と課題</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは</li> <li>2. 看護のとらえ方の変遷</li> <li>3. 看護理論家がとらえた看護の本質</li> <li>4. 職能団体が定義する看護</li> <li>5. 看護師・准看護師の役割</li> <li>6. 生活者としての存在</li> <li>7. 成長・発達する存在</li> <li>8. 統合体としての存在</li> <li>9. 患者と看護師の関係</li> <li>10. 病気に関連した患者の行動</li> <li>11. ライフサイクルからみる患者の心理</li> <li>12. 治療を受ける患者の心理</li> <li>13. 療養の場からみた患者の心</li> <li>14. 健康という考え方</li> <li>15. 健康の定義</li> <li>16. 健康のレベルとニーズ</li> <li>17. 病院における看護活動</li> <li>18. 地域・在宅における看護活動</li> <li>19. 国際看護活動</li> <li>20. 看護提供システム</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>21. 看護体制と看護方式</li> <li>22. 医療安全を学ぶ意味</li> <li>23. 医療安全の動向</li> <li>24. 医療安全に関する基礎知識</li> <li>25. 事故発生のメカニズムとその対策</li> <li>26. 医療安全における感染対策</li> <li>27. 職業と看護職</li> <li>28. 看護職の役割と看護業務</li> <li>29. 専門職としての看護師</li> <li>30. 保健医療福祉のしくみ</li> <li>31. 保健医療福祉施設の種類と役割</li> <li>32. 地域における多職種連携</li> <li>33. 保健医療福祉対策</li> <li>34. 看護史を学ぶ意味</li> <li>35. 古代文明の発祥と医療・看護の形成</li> <li>36. 中世から近代にかけての看護のあゆみ</li> <li>37. 日本における看護の変遷</li> <li>38. 現在の看護と課題</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは</li> <li>2. 看護のとらえ方の変遷</li> <li>3. 看護理論家がとらえた看護の本質</li> <li>4. 職能団体が定義する看護</li> <li>5. 看護師・准看護師の役割</li> <li>6. 生活者としての存在</li> <li>7. 成長・発達する存在</li> <li>8. 統合体としての存在</li> <li>9. 患者と看護師の関係</li> <li>10. 病気に関連した患者の行動</li> <li>11. ライフサイクルからみる患者の心理</li> <li>12. 治療を受ける患者の心理</li> <li>13. 療養の場からみた患者の心</li> <li>14. 健康という考え方</li> <li>15. 健康の定義</li> <li>16. 健康のレベルとニーズ</li> <li>17. 病院における看護活動</li> <li>18. 地域・在宅における看護活動</li> <li>19. 国際看護活動</li> <li>20. 看護提供システム</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>21. 看護体制と看護方式</li> <li>22. 医療安全を学ぶ意味</li> <li>23. 医療安全の動向</li> <li>24. 医療安全に関する基礎知識</li> <li>25. 事故発生のメカニズムとその対策</li> <li>26. 医療安全における感染対策</li> <li>27. 職業と看護職</li> <li>28. 看護職の役割と看護業務</li> <li>29. 専門職としての看護師</li> <li>30. 保健医療福祉のしくみ</li> <li>31. 保健医療福祉施設の種類と役割</li> <li>32. 地域における多職種連携</li> <li>33. 保健医療福祉対策</li> <li>34. 看護史を学ぶ意味</li> <li>35. 古代文明の発祥と医療・看護の形成</li> <li>36. 中世から近代にかけての看護のあゆみ</li> <li>37. 日本における看護の変遷</li> <li>38. 現在の看護と課題</li> </ol>				
【テキスト／参考文献】					
看護学入門 5 基礎看護：看護概論（メヂカルフレンド社）					
【評価】					
学科試験 筆記；100点をもって満点、60点をもって合格とし、60点未満を不合格とする					